

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部 文化学科 アジア・オセアニアコース
学年(出発時)	3年
大学名	カセサート大学
国	タイ
留学期間	2015年 8月 6日 ~ 2016年 5月 22日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	7:20 仏教クラブ 授業や自習
9:00	授業や自習
10:00	授業
11:00	友人や先生と過ごす
12:00	昼食
13:00	授業
14:00	授業
15:00	友人と過ごしたり自習したり
16:00	仏教クラブ
17:00	
18:00	部活
19:00	帰宅 夕食
20:00	友人と過ごしたり自習したり
21:00	
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Thai Conversation in Everyday Life for I	3時間/週	3	英語	タイ語の基礎(自己紹介、数字、道案内、買い物等に必要な知識)をスピーキング中心に学ぶ授業。クラスメートやボランティアで訪れるタイ人の学生と実際に会話をしながら練習していく。最終試験は、決められたテーマについて先生とタイ語で会話をします。
Thai Language for Communication	3時間/週	3	英語	タイ人学生向けの、主に英語コミュニケーション論についての授業であったが、タイ文字や文法の構造などについての知識を英語と比較しながら学ぶことができた。また、スピーチやディスカッションの方法についても学んだ。中間試験、期末試験ともに授業で学んだ知識について問う筆記試験だった。
Public Speaking	3時間/週	3	タイ語	タイ語によるスピーチやプレゼンテーションの方法を学ぶ授業。ほぼ毎回、次の授業で話すテーマが与えられ、公の場で話すときの丁寧語、決まり文句などについてのタイ語の知識を身に付けることができた。また、クラスメートの発表を聞く機会が多いため、リスニング力も鍛えることができた。期末試験は、授業で学んだ知識を問う筆記試験と与えられたテーマについてのタイ語スピーチ。
Mahayana Buddhism	3時間/週	聴講	タイ語	大乘仏教について、上座部仏教と比較しながら、その歴史や教理について学ぶ授業。授業はタイ語で行われ、仏教用語が多かったため、私にとっては難しかった。
Advanced Communication for Thai Language II	3時間/週	3	タイ語	タイの文化(年中行事、仏教関係の簡単な知識、伝統祭礼など)について学ぶ授業。先生による講義やその文化について説明している教科書の文章や会話文を読みながら、タイ語でその文化について説明できるよう、ペアで会話文をつくり短いタイ語作文を書いたりする練習もたくさん行った。中間試験、期末試験ともに、授業で学んだ知識について問う筆記試験。
Transulation for Thai Language	3時間/週	3	タイ語と英語	英語の文章をタイ語に訳すWriting中心の授業。様々な表現について、タイ語での訳し方を学んだ。授業で学んだ簡単な基礎文法知識を応用して、短い英語の文章をタイ語に訳す課題が毎回出された。中間試験、期末試験ともに、英語からタイ語に文章を訳す筆記問題。
Sanskrit II	3時間/週	3	タイ語	サンスクリット語を学ぶ授業。タイ語は、サンスクリット語からの借用が多いため、2つを比較しながら、サンスクリット語を学ぶことができた。文法や読解を、教科書を用いて行った。中間試験、期末試験ともに、授業で学んだ知識について問う筆記問題。
Buddhist Ethics	3時間/週	聴講	タイ語	仏教教理の中でも、特に道徳や倫理に関する分野について、仏教徒は暮らしのなかでそれらどのように理解し、実践していくかというテーマを扱う授業。前半は先生による講義中心だが、後半では先生と生徒の対話時間を設けることによって、皆で考えを深め共有していきながら進められていった。専門用語が多いので私には難しかった。

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	チューターと留学生の間で特に決められた面会スケジュールはなく、必要なときにチューターと留学生がお互いに連絡を取り合っており、学校生活や語学面等でサポートしてもらえるシステムであった。
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	「Thai Language for Foreigners」期間 2016.2.6-5.14 料金8700バーツ(約26970円)人文学部主催: 私は受講しませんでした。毎週土曜日、午前中(9:00-12:00)は会話、午後(13:00-16:00)は読み書きを中心にタイ語を一から学びたい学生向けの語学コースが開講されていました。他に、英語コースも上と同じような期間、料金で開講されていました。

生活	
住居のタイプ	外国人留学生寮
住居の名前	International Dormitory
部屋タイプ	一人部屋
ルームメイト(国籍)	無
室内設備	クローゼット、大きめの本棚、机、椅子、スタンド電気、ベッド、冷蔵庫、テレビ、エアコン
共用施設	トイレ、シャワールーム、コモンルーム
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	大学内に寮があり私の学部(人文)は寮から比較的近かったので、私は徒歩(約10分)でしたが、大学から無料で自転車を借りることもできます。また、学内に、バイクタクシー(有料)や学内無料バスが走っているの、それらを利用することもできます。
アルバイトの有無	無(* 大学から留学生向けにアルバイト情報を提供するというは特にはありませんでしたが、タイ人の友人を通じて、日本語を教える家庭教師や英語の翻訳などのアルバイトをしていた友人はいました。)
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	ノンイミグランドビザ「ED」(留学)
Visa申請先	タイ王国名古屋名誉総領事館
Visa取得にかかった日数	3~4日程度
Visa取得にかかった費用	9000円
Visa取得方法、提出書類等	提出書類: 申請書 (APPLICATION FOR VISA)、写真2枚、パスポート、航空券(予約証明書可)、英文経歴書 (PERSONAL HISTORY)、大学からの英文推薦状原本、タイの大学からの英文招聘状原本、申請料 (singleの場合9,000円、multipleの場合22,000円)
留学先大学の最寄り空港までの経路	スワンナプーム国際空港の場合: 大学前からバスでBTS(電車)のMochit駅→Phayathai駅→エアポートリンクで空港まで。またはタクシー1000円ほどで30分~50分。ドームアン空港の場合: 大学前からバスで一本。
渡航費用	航空券往復11,1720円
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	帰国予定が大学4年の6月であったため、帰国後の残り期間ではその後の進路や卒業論文のための活動、準備時間が足りなかったため、卒業を1年遅らせることにしました。
就職活動開始時期	未定
帰国後の進路	未定

留学にかかった費用	
現地通貨=日本円(約)	1バーツ=約3.1円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	10,1120円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	教科書代2000円ほど。授業以外の大学の語学コースは受講しなかった。
宿舍費(月額)	1,2400円
光熱費(月額)	平均3100円ほど
食費(月額)	12,000円ほど
その他	文房具や生活用品、旅行など: 1万~3万円
留学期間中にかかった費用の合計	60万円ほど(渡航費を除く)

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

私は、ほぼタイ語力ゼロの状態タイへ行きました。留学前の半年間、独学で基本のタイ文字は覚え、三重大学に来ていたカセサート大学からの留学生に協力してもらい会話の練習等定期的に行っていました。実際に現地に行くと私のうろ覚えのタイ語はほとんど使いものになりませんでした。大学についての事務手続きなどは、英語を用いたりタイ語専攻の日本人の友人、日本語専攻のタイ人の友人などに助けられ、なんとかになりましたが、授業が始まると、タイ語で行われる授業ははじめは1%も理解できませんでした。もちろん、タイに留学に来たからには、タイ語を必ず習得したいと思っていましたが、自分の本来の目標を思い出し、語学の問題についてはあまり悲観せず、少しずつ頑張ろうとポジティブに考えていました。私の、このタイ留学での目標、テーマというのは、カセサート大学の仏教クラブに入って、タイの仏教徒の生活や考え方に触れるというものでした。私は、三重大学では、文化人類学のゼミで学んでいて、特に仏教信仰について興味を持っていたので、今回のタイ留学で仏教クラブの友人と過ごせたことは、私の研究テーマを探る上で、とても素晴らしい体験となりました。仏教クラブの友人たちは、私をあたたく迎え入れてくれ、私はほぼ毎日、そこで彼らと一緒に読経したり瞑想をしたり、休日にはお寺に行ったりと、仏教に関する多くの活動を彼らと共にすることができました。それらを通して、タイ仏教に関して私が今まで知らなかった側面をたくさん発見することができ、私が考えていた研究テーマを様々な切り口からもう一度見直してみるきっかけになりました。そして、そういう発見が積み重なると、もったきちんとタイ仏教について、この仏教クラブについて、そして何よりも彼らのことについて知りたい、彼ら一人ひとりと話してみたい、と思う気持ちが強くなっていきました。こうして、それまではのんびりと構えていた言語の壁を、今度はきちんと認識したからこそ、これがこのあとのタイ語の伸びにつながったと思っています。わからないことがあれば英語が得意な人に英語で教えてもらえばいい、のではなくて、私が、タイ語を学ばなければ、と改めて気づいたのです。ほぼ毎日仏教クラブの活動に参加しタイ語に触れる機会が多かったこと、また日々のタイ語の授業や課題をあきらめずにこなしていったことに加え、タイ語への強い気持ちがあったからこそ、4か月も経った頃には、英語で通訳してくれる友人がいなくてもタイ語で会話をする勇氣と自信がついたと思っています。授業では、特にスピーキングの授業がとても勉強になりました。タイ語でスピーチをつくり、単語やその発音を練習して、内容を暗記してみんなの前で発表するというのは、とても大変なことでしたが、このおかげで語彙力もあがり、発音の練習をたくさんできました。ここでもタイ人の友人にたくさん助けられました。寮は、一人部屋でしたが、自分の部屋から出れば、国籍の違う多くの友人と話したり出かけたりする機会があり、とても刺激的な日々でした。留学を終えても、世界のあちこちにまた会いたいと思う友人できたことは、世界の様々な出来事、文化に目を向けてみるという意味で、視野がぐんと広がりました。たくさんの仲間と過ごしたこの約10か月の日々は私にとって宝物です。特に、多くの時間を仏教クラブで過ごしましたが、ここでの出会いや彼らとの日々は私の今後の研究に関わる多くの貴重な体験を私に与えてくれました。仏教国タイの中でも、特に熱心な仏教徒である彼らとは、時に物事の見方考え方の面で自分とは大きく違う部分もたくさんあり、それに戸惑ったり傷ついたりもしました。しかし、このように、彼らと過ごす中でたくさん考えたり悩んだりした経験は、私に多くのことを気づかせてくれました。何よりも、仏教クラブの友人たちと、共に過ごした日々とそこから私が学んだことや考えたことを伝えたいという気持ちを今は強く持っているのです。これからも自身の研究を頑張っていこうとよりいっそう思えるような、留学となりました。

今後留学する人へのアドバイス

語学に自信がないから、留学が不安だという話を聞いたことがあります。もちろん私も、行く前までは、全く自分になじみのないタイ語でやっていかなければならないのだということに多少の不安はありました。実際に現地でも、タイ語ができなくて全く困らなかったということはありません。学食ではメニューが読めないもので食べてみたい料理を注文できなかつたり、何よりも授業にまったくついていけなかつたり、大変だったことは少なくありません。私は、カセサート大学の人文学部タイ語学科で、主に中国や韓国、また日本からの他の留学生たちと共に勉強していたのですが、友人たちは皆、外国語学部タイ語学科専攻というようなタイ語を自分の国の大学でみっちりやってきた人たちばかりでした。周りの友人たちのタイ語力に圧倒され、悩んだこともあります。しかし、私の留学の一番の目的は語学ではなかったもので、授業が全くついていけないのなら何のために留学に来たのだろうかというふうに悩んだことはありませんでした。私は、タイ語を勉強しながら、仏教クラブで自身の研究テーマにも関わる仏教について勉強をする、という目標、テーマを持っていたからです。留学体験というものは人それぞれなので、はっきりこれ、というようなアドバイスは難しいですが、私の経験から考えると、この、何か一つ、大きな目標またはテーマというものを持つということは、とても自分の助けになると思います。せっかくなさんの準備をして実現した留学、毎日どう過ごそうか、何をやろうか、自分も周りもきつとろんなやる気に満ちています。そのような中で、周りにたくさん刺激を受けながら勉強をしたり、いろいろな活動に参加したりすることはとてもいい経験になりますが、それと同時に、周りと比べて落ち込んだり自信をなくしたりということも起こってくると思います。そんな時に、自分を励ましてくれるのは、自分で決めた目標やテーマです。実際に私も、タイ語の授業が全くついていけなくて悔しい思いをしていた時に、ネガティブに考えずに済んだのは、仏教クラブという目標があったからです。目標やテーマがあれば、迷ったり悩んだりしても、やりたいこととやるべきことがおのずと見えてくるので、それがまた頑張る力と自信になります。実際、私の場合も、仏教クラブの友人たちともっといろいろなことを話したい聞いてみたいという気持ちが、タイ語へのモチベーションになり、結果的にタイ語力が大きく伸びました。外国語が飛び交っていて何が何だかわからないもやもやとした日常が、語学力の向上とともにだんだんと開けてくる楽しさは、実際に外国で生活するという貴重な機会では味わえな

報告書記入日

2016.6.2